

平成29年度新規研究テーマの紹介

工業試験場では、業界ニーズを踏まえながら、基盤産業の競争力強化や次世代産業の育成を目指し、炭素繊維、太陽電池、機能性食品、スマートテキスタイル、3Dプリンタなどの各種分野の研究を推進しています。

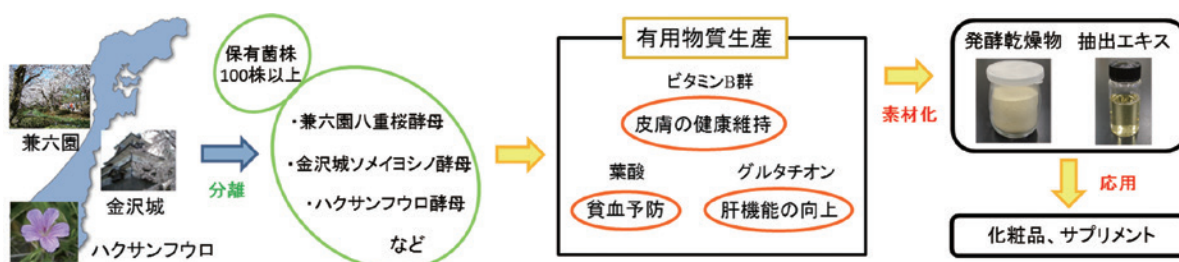
研究課題の面からは、業界の課題解決や企業の研究開発支援はもちろん、工業試験場自らの先導的な研究やシーズの育成にも取り組んでいます。

以下に紹介する3テーマは、これまでの工業試験場の研究を基礎に平成29年度から応用研究としてスタートするものです。これらの研究は、企業との共同研究が可能であり、皆さまの参画を期待しています。

テーマ① 県産酵母を用いた有用物質生産

部門:化学食品部 研究期間:H29～31

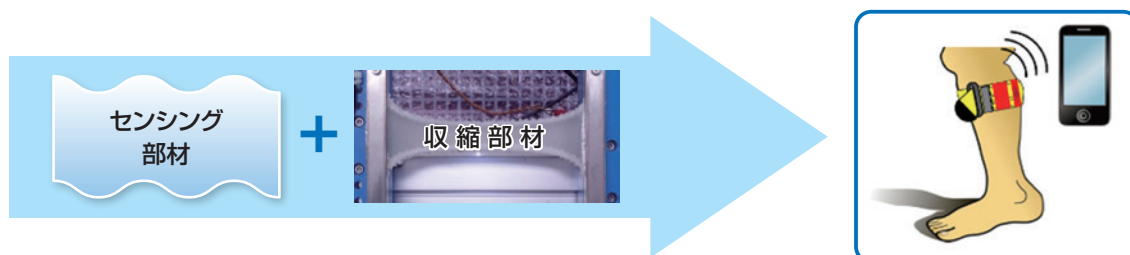
概要: これまで県内の名所旧跡の花などから酵母を分離し、県産オリジナル酵母を100株以上保有しており、それらを用いて清酒やパンなどを開発してきました。H29年度からは県産酵母が生産する有用物質を特定し、新たな機能性を明らかにする研究に取り組みます。これにより化粧品やサプリメントへの応用が期待できます。



テーマ② 人体センシングのための繊維部材の開発

部門:繊維生活部 研究期間:H29～30

概要: スマートテキスタイルの要素技術として、むくみ解消や筋力補助に資するため通電により収縮する繊維部材の研究をしてきました。H29年度からは、測長センサとなる繊維部材などの開発に取り組みます。これらのセンシング機能と動作機能の組み合わせにより、医療やスポーツ分野に応用できる製品の開発を目指しています。



テーマ③ 印刷技術を用いた高性能電子部品用ヒータの開発

部門:電子情報部 研究期間:H29～30

概要: これまで、印刷による抵抗体製造の原料として、電子部品に用いるニクロム入りのペーストを開発しました。H29年度からはより高い耐熱性が求められるヒータへ応用可能なペーストの開発に取り組みます。印刷技術を用いるため様々な形状のヒータを形成でき、低コストのニクロムを使用しておりコスト削減も期待できます。

